

2017年12月

集中力の変化に基づく新たな授業時間の提案

経営学部 経営学科 堀田ゼミ
b4r11129 土佐泰平

【卒業論文概要】

研究の動機として、毎年アルバイトをしている学生は増加し1ヶ月のアルバイト代も年々増加する傾向にある。対照的に学生の仕送り額は大きく減少し、学生の金銭的事情は厳しくなっている。また、大学の設置基準が制定されてから、多くの大学で1時限約90分の体制が選択されている。人間の集中力の変化やその持続に関する研究発表が進み、朝の早い時間や長時間の拘束は集中力の低下に繋がる事が判明している。学生の経済状況の悪化など、制定当時から学生を取り巻く環境は大きく変化している。制定当時から変更のない大学の授業時間は現状に適していないのではないかと疑問に思ったことが研究の始まりである。

本論文の目的は、学習環境の変化に対応した効率的な授業時間割の提案である。現在の大学生の学習環境を把握し、より効率の良い授業時間の在り方について明らかにすることである。

本研究では、学生の生活状況を踏まえたうえで、効率よく学習するための環境を考察する。まず、大学の設置基準を満たす範囲で、集中力の観点から1授業当たりの授業時間を算出した。そして、学生のアルバイト状況と奨学金などの金銭的事情などの、学生を取り巻く環境に合わせた始業時間と1日の授業時間の組み合わせを検討した。そこで改善策として授業時間の異なる大学のカリキュラムと、総授業時間に変化がないような新たな組み合わせを比較した。そこで学生を取り巻く環境から提案した条件を多く満たす組み合わせを明らかにした。しかし、新たなカリキュラムの検討にあたっては、学生に合わせたカリキュラムは授業選択により学生からある程度のコントロールは可能であることや、選択すべき科目が複数あることで望まないカリキュラムになるなど新たな問題が明らかになった。今後、学校側だけではなく学生の学習を守るための環境の整備が望まれることを課題として提示した。